



環境にやさしい容器包装

ユニーでは、セルフサービスの形態をとり、多くの商品を容器包装に入れて販売しています。

特に食品売り場では、容器包装はお客様が売り場で商品を選びレジで精算し持ち帰るのに便利で、

また、商品の品質を衛生的に保つ大切な役割を果たしています。

ところが、家庭から排出されるゴミの60%が、こうした容器包装であると言われています。

ユニーでは容器包装を見直すことで、家庭のゴミの削減、容器包装資材の節約、また容器包装由来のCO₂発生抑制を図っています。

容器包装の見直し

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化、薄肉化
- 贈答品などの簡易包装
- トレイを使わない販売の検討

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルボックスによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレトペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- バイオマスプラスチック製容器の使用
- 使用済みバイオマスプラスチック製容器のリサイクル

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

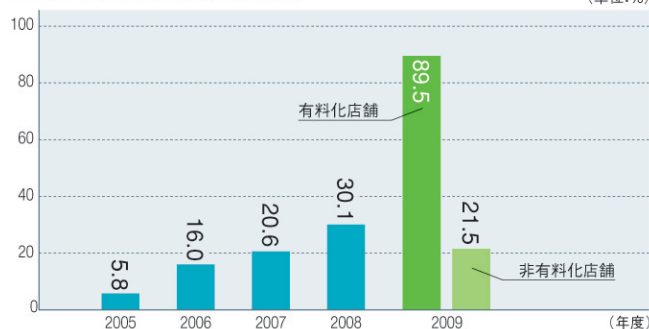
▶ ノーレジ袋キャンペーン

レジ袋はセルフサービスのスーパーで1960年代に使われ始め、薄くて丈夫で水にも強く便利のため、すぐに普及し消費生活になじんでいきました。店舗では無料で配布していたため、必要以上に家庭に持ち帰られ、家庭ごみの中でレジ袋の存在が目立っていきました。ビールや精肉、豆腐などセルフサービスで販売するときどうしても必要な容器包装に比べ、レジ袋は買い物袋（マイバッグ）や風呂敷などを使うと、必要ではない容器包装です。

ユニーでは、1989年から「お買い物袋持参運動」をお客様と一緒に始めました。その後、マイバッグキャンペーンを全店舗で展開し、「マイバッグ」が環境にやさしいお買い物の印になりました。現在では、中部地方の店舗を中心に175店舗でレジ袋無料配布中止を実施し、約9割のお客様がレジ袋を辞退され、持参したマイバッグやバスケットでお買い物をしています。

● ユニー全社のレジ袋辞退率の推移

(単位:%)



レジ袋辞退率の算出は、従来はお買い物袋スタンプカードの回収枚数から計算していました。半数以上の店舗で無料配布を中止したのにも関わらず、2009年8月末日をもって、それらの店舗でスタンプカードを廃止しました。そこで、2009年度のレジ袋辞退率は、無料配布中止店舗（有料レジ袋購入者数とレジ通過客数による算出）と無料配布実施店舗（回収スタンプカードによる算出）の2通りで計算しています。

● ユニー全社のレジ袋使用枚数 (単位:千枚)

年度	ユニー	ユースタ	全体
2005年度	340,611	-	-
2006年度	333,630	-	-
2007年度	310,559	-	-
2008年度	228,508	80,714	309,222
2009年度	134,678	-	-

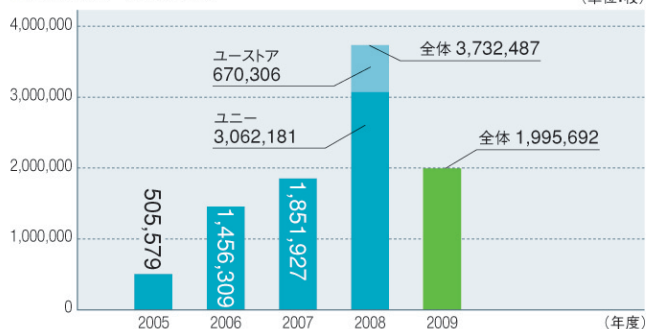
● 容器包装リサイクル法への対応

年度	金額 (万円)
2005年度	2億5,487万円
2006年度	2億7,322万円
2007年度	2億9,729万円
2008年度	2億7,978万円
2009年度	2億2,272万円

容器包装リサイクル法に基づき、財団法人容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額。

● スタンプカード回収枚数

(単位:枚)



● レジ袋使用量・重量の推移 (全サイズのレジ袋の重量)

(単位:t)

年度	ユニー	ユースタ	全体
2005年度	愛・地球博エコマネーに参加	-	2,195
2006年度	ノーレジ袋キャンペーン開始	-	2,075
2007年度	レジ袋無料配布の中止	-	1,818
2008年度	ユニー	レジ袋有料化が進み、レジ袋使用削減を実現	1,399
	ユースタ	-	452
	全体	-	1,851
2009年度	全体	2009年度末までに76%の店舗で有料化を実施	1,029

※旧ユニーと旧ユースタは、2008年8月21日に合併しました。2007年度までの掲載数値は旧ユニーのみとなっています。

